

# 小学校の事例 西区 発寒西小学校

## 普段の活動を振り返りながら、地域の環境イベントに発表者として参加。

地球へのやさしさを考える地域の事業や団体に賛同。普段の活動を振り返り、自分たちが発信する側に。目的を再認識し、「地球のための活動」であることを実感するようになる。



### はじめり 地球にやさしい環境を実現するための呼びかけ

地域のイベント「西区こども環境広場」の参加募集を受け、学校側で5～6年生の回収委員会の子供たち24名に声かけを行い、パネル発表での参加に至った。「西区こども環境広場」は、地球にやさしいまちづくりを進めるために、西区民会議が各団体の活動をPR、実践する場として平成22年に初めて開催したものの。子供たちは「普段、委員会活動がんばっている姿の紹介」と「地球にやさしい環境を実現するための呼びかけ」に取組んだ。



回収コーナー

### 内容 手作りの掲示物と写真でわかりやすいパネル発表に

発表タイトルは学校側の提案で「発寒西エコ活動～児童活動を中心とした取組」としたが、発表の内容については子供たちが積極的に意見交換をし、普段校内で回収をしている牛乳パック、リングブル、ペットボトルキャップの回収活動とリサイクルについて説明することに決定した。

牛乳パックは、回収後トイレトペーパーなどに生まれ変わることを説明。リングブルはアルミとして形を変え、車いすに交換されることが目的。回収箱はもちろん、子供たちがペットボトルで手作りしたものだ。そして、ペットボトルキャップは、近隣の大型スーパーの回収活動に協力する形をとり、最終目的はハンガーに生まれ変わることだ。年に数回、学校として持ち込んでいるが、うち1回は回収委員長が教師に同行し、スーパーの担当者に直接受け渡している。

パネルは大きいもの2枚の両面を使い、主な掲示物は、子供たちが活動しているようすを撮った写真と、子供たちが画用紙などを使ってリサイクルの流れなどを説明したもの。写真のキャプションなども子供たちが考えてつけたものだ。発表準備(掲示物の作成)には約1ヵ月かかり、放課後に残って活動する姿もみられた。



パネル発表

### 効果 普段の活動を振り返り「環境のための活動」を実感

環境広場への参加をきっかけに自分たちの活動に改めて自覚をもち、目的を再認識、そして次に日常の環境行動に結びつく機会となったように思われる。回収方法や回収物の行方については、今回の活動で詳しく知ることができた。その点で、委員会活動で行っていることが単なる作業ではなく、環境のためにやっている活動であることが認識できたようであり、大きな変化であると考えられる。また、活動を他者に見て知ってもらうことで、自分たちの狭い範囲に収まらず情報が広がっていくよさを実感できたようだ。



リングブル回収のようす

### 発展 地域とのつながりから生まれる体験学習で「エコ」を吸収

本校では、校内だけでなく、地域との関わりを大事にするため、「エコタウンはっさむ」という団体と協働して活動を行っている。「エコタウンはっさむ」は、まちづくりセンターに事務局を置き、発寒地区で環境活動を行っている地域団体だ。町内会・商店街・子ども会・小学校などが協力し、地域にやさしいまちづくりを目指して、リサイクル活動や講習会の開講、環境に配慮したイベント(廃油を利用したキャンドルづくり、せっけんづくり、エコバッグづくりなど)を行っている。このイベントに、毎回、本校からも希望者が参加している。

数年前から、地域の川での「水生生物観察会」に参加。4名程度のグループに分かれ、川や水中生物に詳しい方(札幌市から派遣された環境教育リーダーの方)がグループに一人つく。川の水温や流れ、ごみのようすなどを記入する「観察用紙」、見つけた生き物の数を記録する「カウントシート」、これらをまとめるための「まとめシート」に記入をしながら、グループごとに上流、中流、下流の3カ所を移動し、実際に川の中に入って観察活動をする。

近年は規制が多く、なかなか自由に入ることができない川に入って自由に楽しむことができ、見たことのない魚や昆虫の発見の連続に、子供たちは夢中で飛びついていた。

環境教育リーダーや地域の方からお話を聞いたり質問に答えてもらえたりできるほか、札幌市の環境対策課の方が水の色やにごりなどの水質調査を見せてくださるので、交流だけでなく、様々な環境に対する知識を吸収できる体験学習の場となっている。今後も、参加者が増えるよう、どんどん声かけをしていきたい活動である。



水生生物観察会

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪



実施校から  
メッセージ

身近な自然に対する愛着や気付き、身近な環境に対する働きかけや取組が環境教育のスタートであり、「地球を考えること」につながっていくと考えます。子供たちがこの環境を守りたいと切に願い、自分ができることを積極的に実践していける力を育んでいきたいと思っています。